

履修モデル作成者：長谷川 直哉

**テーマ：**企業と社会のサステナビリティ（持続可能性）を学ぶために

**関連の深いコース：**サステナブル経済経営コース、ローカルサステナビリティコース、グローバルサステナビリティコース

## 1. このテーマを学ぶために

現代社会では企業の強大な経済力が、国境を超えて地球環境や人々の生活に多大な影響をもたらしています。SDGs（持続可能な開発目標）やパリ協定（脱炭素）の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。

企業はSDGsを達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。このテーマでは、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、CSR（企業の社会的責任）に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、サステナビリティ社会の実現に貢献する企業経営のあり方を学びます。

企業は、利潤追求を最大の目的とする組織として誕生しましたが、1990年代初頭に顕在化した地球環境問題によって、多くの企業はサステナビリティ社会の構築を目指したSDGs経営の推進、財務情報と非財務情報を統合した情報開示の実践、マルチステークホルダーとのパートナーシップなどに取り組んできました。このような努力にもかかわらず、多くの資源や汚染のフローが、持続可能な限界を既に超えてしまっているとの指摘もあります。

こうした懸念に対して、企業を中核とするこれまでの社会経済メカニズムを見直す必要があるのではないかという問題提起がなされ、CSRやSDGsの視点から、企業経営のあり方が問い直されようとしています。社会経済システムの中核に位置する企業経営とCSR・SDGsの関係を理解することは、民間企業や公務員などを問わず、社会のあらゆる分野で求められる知識なのです。

経済問題、環境問題、社会問題などは一面的なアプローチでは解決できない要素を含んでいます。さまざまな社会課題に対する答えは一つに定まらないため、経営・経済・社会・法律・政策・倫理などに関連する科目を学習し、社会科学と人文科学をバックボーンとする多面的な視野を持つことが求められます。さらに、企業や社会システムの実態を的確に理解するには、自然科学分野の科目を学習し、数理的・科学的なものの見方や考え方を身につけることも必要となります。

最後に、現代社会が内包する諸問題の解決に向けて、それらを総合的に分析・評価するスキルと分野を越えて協働するためのコーディネート能力を身につけることも心掛けてください。

## 2. テーマに関連した推奨科目

【基幹科目】	現代企業論	ビジネスヒストリー	経営学入門
現代社会論 I	NPO・ボランティア論	日本環境史論 I	ヨーロッパ環境史論 I
気候変動論 I	気候変動論 II		
【政策科目】	CSR 論 I II	環境経営論 II	環境ビジネス論
国際環境政策 I II	環境経済論 I II	地域経済論 I II	労働環境論 I II
環境社会論 I II	環境科学 II		